

【伏図作成例】電流計データから支持層深さが読み取れる場合 別添

通し番号:

案件名:

全杭数:46本

流用のあった杭数:3本(電流計)

杭径:φ700、φ800

杭長:62m、49m(62m杭のみ流用)

工法:DYNAWING工法

支持層:細砂層

工事期間:H24.4~H26.5

①支持地盤位置の確認

- 1) 設計時のボーリング調査(2ヶ所)結果から、支持層レベルはGL-61.3m~GL-61.6m。
- 2) 試験杭の支持層レベルは、GL-61.0m~GL-61.8m。
- 3) 流用のない杭の電流計のデータの記録から、支持層レベルはGL-59.5m~GL-62.0m。

②杭長の確認(62m杭のみ)

- 1) 杭納品書から、杭長は62mであることを確認。
- 2) 杭天端レベルはGL-1.5m又はGL-2.3mであることを、施工記録により確認。
・杭の先端レベルはGL-63.5m又はGL-64.3mと判断。

③支持層到達の確認

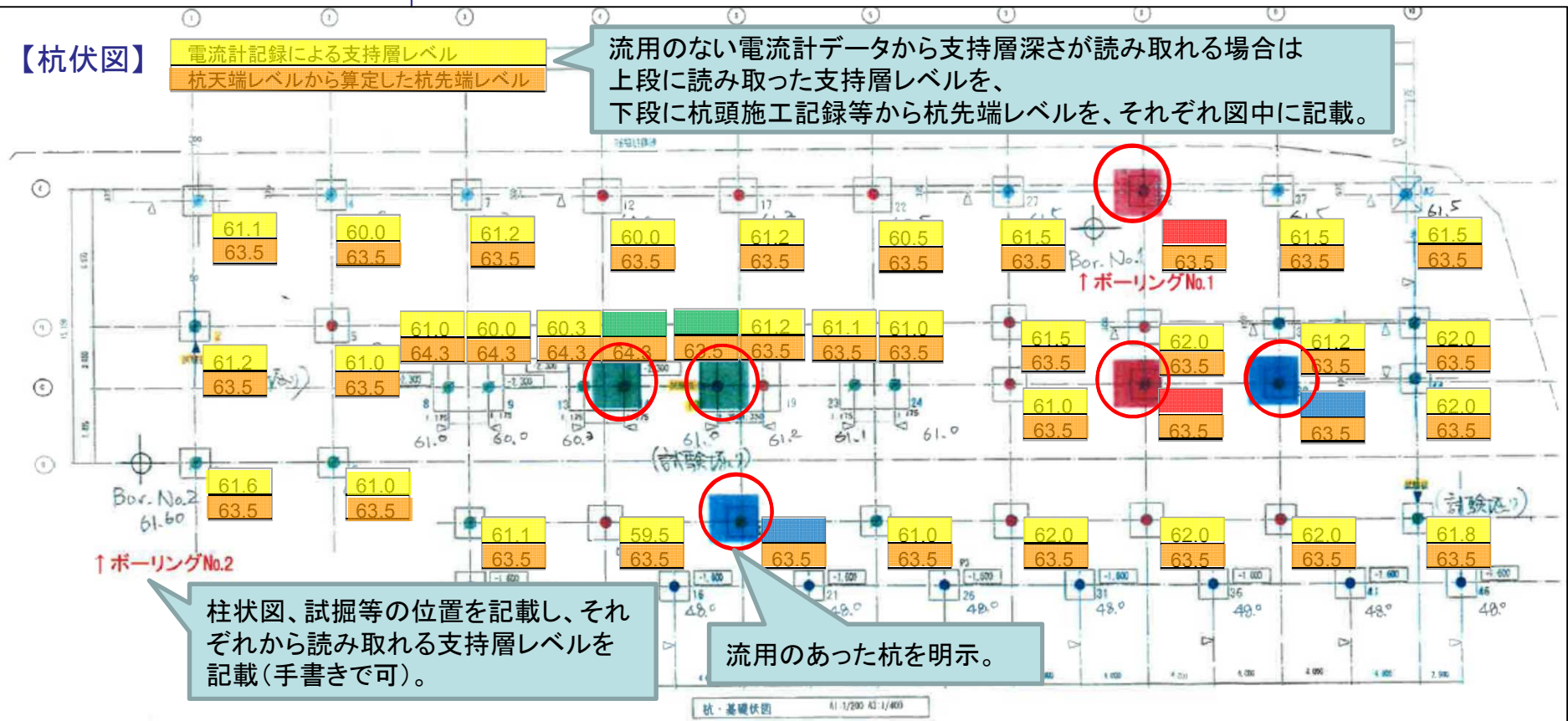
- ・①及び②より、流用のあった杭の先端は、支持層に到達と判断。

【杭伏図】

電流計記録による支持層レベル

杭天端レベルから算定した杭先端レベル

流用のない電流計データから支持層深さが読み取れる場合は
上段に読み取った支持層レベルを、
下段に杭頭施工記録等から杭先端レベルを、それぞれ図中に記載。



通し番号:
案件名:
全杭数:28本
流用のあつた杭数:3本(電流計)
杭径:φ700、φ800
杭長:48.85~49m
工法:DYNABIG工法
支持層:細砂層
工事時期:H23.11

- 1) 設計時のボーリング調査(2ヶ所)及び試掘結果から、支持層レベルはGL-48.7m～GL-49.1m。
- 2) 流用のない杭の電流計のデータの記録から、それらの杭がすべて支持層に到達していることを確認。
- 3) 1)2)より、支持層は概ねGL-49.0m程度で平坦であることを想定。

- 1) 杭納品書から、流用のあった杭の杭長は48.85～49mであることを確認。
- 2) 杭天端レベルはGL-2.35～GL-2.9mであることを、施工記録により確認。
 - ・杭の先端レベルはGL-51.35m～GL-51.9m。

・①及び②より、流用のあった杭の先端は、支持層に到達と判断。

柱状図や試掘から想定した支持層レベル
杭天端レベルから算定した杭先端レベル

試掘No. 1 [支持層GL-49.0m]

試掘No. 2 [支持層GL-48.7m]

ボーリング調査位置 [支持層GL-49.0m]

流用のあった杭を明示。

S = 1 / 100

※図面上に記載のないものは、杭天端GL-2.350とする。

五号線

柱状図、試験杭、試掘等の位置を記載し、それぞれから読み取れる支持層レベルを記載(手書きで可)。